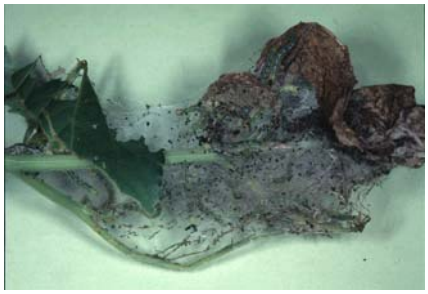
アシタバに発生する害虫①

〔ヤマトフキバッタ〕

〔ウドノメイガ〕

〔クロモンキノメイガ〕



〔ハナウドモグリガ〕

アシタバに発生する害虫①

バッタ目：　イナゴ科　ヤマトフキバッタ　*Parapodisma yamato*

1997年 5 月に神津島で採集した幼虫個体を防除所内で室内飼育し，成虫まで成長させたものを加納康嗣氏；日本直翅類研究会に送付したところ本種と同定された。イナゴ科，イナゴ亜科，ミヤマフキバッタ属，年1化，7月下旬～10 月下旬に発生するとされている。フキバッタは日本に9属 26 種が分布。同属ではないが近縁のアマミフキバッタが果樹の害虫として知られ，ハネナガフキバッタは北日本で大発生することがあり，ダイズ・小豆・ゴボウ・アブラナ・ソバなどの農作物に被害を与えることが知られている。

神津島においては以前より多発しアシタバ圃場で新葉を食害し深刻な害虫となっている。発生は 5 月から10月ごろまで。（初確認）

チョウ目：　メイガ科　ウドノメイガ　（*Udonomeiga vicinalis* (South)）

神津島（1997年5月）・立川市などで採集。卵塊で産み付けられ，若～中齢期は集団で葉を食害する。新葉は好まず，生葉用の収穫葉に被害が発生することはない。埼玉県では４～９月に成虫が採集されている。成虫の開張は約 30mm。

クロモンキノメイガ（*Udea testacea* (Butler)）

葉に発生しているところを神津島（1997年5月）にて採集。東京付近の草地で 5 月，8～11 月に採集され，アブラナ科・パセリ・ダイズ・セルリー・ハッカ・キクなど多種の作物を食害するとされている。成虫の開張は約 18mm。

ヒメハマキガ科　ハナウドモグリガ　（*Epinotia majorana* (Caradja)）

神津島（1997年5月）・あきる野市において茎に食入している幼虫，葉・花雷を食害している幼虫を採集した。本種はハナウド等のセリ科植物の花や花梗に食入すると言われている。伊豆諸島御蔵島においても発生は確認されている。

新梢先端部に産みつけられた卵から孵化した幼虫が未展開の新葉部に潜って加害し，収穫葉に被害を発生する。5～6 月の被害は大きい。また，開花期に花雷に食入し著しく食害するために，神津島においてアシタバの採種を困難とする害虫のひとつとなっている。成虫の開張は約 14mm。

そのほか，鱗翅目では**ハスモンヨトウ**，**ヨトウ**，**チャノコカクモンハマキ**，**半翅目ではネギアザミウマ**，直翅目で**ツチイナゴ**，鞘翅目で**サビヒョウタンゾウムシ**などを確認している。

（2012.5.24 改）